

日本台湾学会 第12期第1回会員総会 議事録

日時:2021年5月29日(土) 16:00-16:45 webexによるオンライン開催

司会 黒羽夏彦

議長 中原裕美子

書記 田上智宜

司会の黒羽夏彦会員が議長及び書記の立候補を求めたところ、立候補の申し出がなかったため、中原裕美子会員が議長に、田上智宜会員が書記に指名され、承認された。

報告

1. 第12期理事選挙結果について(岡部芳広・暫定選挙管理委員長)

岡部芳広第12期暫定選挙管理委員長の報告が、田中雄大会員による代読により行われた。第12期理事選挙の開票が2021年2月10日に明治大学駿河台キャンパスにおいて立会人のもと厳正に実施され、32名の当選を確認したこと、当選者の氏名はすでに学会ウェブサイトに掲載されていることが報告された。

2. 第12期理事長選出について(松田第11期理事長)

松田理事長より、第12期第1回理事会の結果、引き続き松田会員が次期理事長として選ばれたことが報告された。

3. 第12期理事長あいさつ

松田理事長が、コロナ禍の諸事情に鑑み、第11期に続いてもう一期理事長を引き受けることとなった経緯について説明した。また、所信表明のあいさつを行った。

4. 業務報告

(1) 川上総務担当理事

会員の現状について報告がなされた。会員数は484名(一般会員414名、学生会員60名、シニア会員8名)。過去1年間で21名が入会、10名が退会、8名がシニア会員に移行した。

(2) 山崎会計財務担当理事

昨年は会費納入率が非常に高かった。今後はクレジットカード払いの導入など、利便性を上げるための努力をしていく。

(3) 上水流編集委員長

『日本台湾学会報』第23号は、予定通り6月下旬に発行予定である。

(4) 富田企画委員長

第23回学術大会には分科会企画2件、自由論題12件の申請があり、全て採用された。台湾文学学会会員からの応募はなかった。

(5) 福田広報担当理事

ウェブサイトの更新、メールの配信、ニュースレターの発行とも例年通り進んだ。ウェブサイトに関しては今井会員、ニュースレターについては大東会員が担当の任期を終えられるので感謝申し上げます。またウェブサイトの更新を進めていく。

(6) 洪目録担当理事

交流協会ウェブサイトに掲載されている「戦後日本における台湾関係文献目録」の存廃について

検討を行っている。

(7) 菅野国際担当理事

対外発信強化プロジェクトとして、優秀論文の英訳支援と JCEAS (*Journal of Contemporary East Asian Studies*) への推薦、IJTS との連携によるグローバル台湾研究サロン”The Impact of the COVID-19 Crisis on Taiwan’s External Relations: Views in Japan” の実施、学会報掲載書評の英訳および IJTS への掲載などを行った。

(8) 定例研究会担当

関東: 松岡理事(川上代理報告)

2020年6月以降、オンラインで3回の定例研究会を開催した。

関西: 澤井理事(北波代理報告)

年に一度の関西部会大会は台湾史研究会と合同で開催しており、2020年12月19日にキャンパスプラザ京都でハイブリッド形式で開催した。今年度は12月28日にキャンパスプラザ京都で開催予定。

台北: 田島幹事

4月24日の定例研究会(陳培豊会員による報告)は開催したが、5月22日に予定していた研究会(東栄一郎会員による報告)はコロナの感染拡大に伴い中止となった。

(9) 山口学会賞選考委員長

以下の2名が受賞者に決まった。歴史社会分野は、新田龍希会員の「胥吏と台湾の割譲—南部台湾における田賦徴収請負機構の解体をめぐる—」、政治経済分野は、鶴園裕基会員の「日華平和条約と日本華僑—五二年体制下における中国人の国籍帰属問題(1951-1952)—」。

議題

1. 2019年度決算案、2020年度予算案、選挙管理委員について

松田理事長より、以下の説明・提案が行われた。「2019年度決算案、2020年度予算案は、規約に従い総会で承認する必要があったが、昨年はコロナウイルス感染症拡大により、やむなく総会が開催できなかったため、理事会で承認し、学会のウェブサイトで公示し、異議・質問がないか会員にお諮りした。期日までに異議等が寄せられなかったため、これに従い進めさせていただいたが、今次の総会で、これらの暫定決算案、予算案をご承認いただく必要がある。また、暫定選挙管理委員については、すでに投開票業務も終わっているが、この場で追認をいただきたい。」
以上の提案について、異議なく承認された。

2. 2020年度決算案について(会計監査報告)

山崎理事より決算案についての説明が行われた。2020年度の会費納入状況は堅調であった。学術大会が書面での開催となったため、支出は当初予算より少ない水準にとどまった。これにより昨年度は全体的に黒字となった。

岸本会員により会計監査報告がなされ、2020会計年度の会計報告書及び会計報告関連資料の監査を行った結果、適正であることが確認されたことが報告された。

決算案は、異議なく承認された。

3. 2021年度予算案について

2021年度予算案について会計担当山崎理事より説明が行われ、異議なく原案通り承認された。

4. 会計監査について

松田理事長より、暫定会計監査の追認について説明があった。2021年度までお引きうけいただいている張士陽会員に加え、伊藤信悟会員が22年度までの2年間の会計監査として推薦された。以上の提案について、原案どおり承認された。

5. 学会賞拡充に伴う学会賞規定の改定について

三澤理事より、学会賞拡充に伴う学会賞規定の改定について説明があった。従来の日本台湾学会賞に加えて、日本台湾学会学術賞、日本台湾学会特別賞を新設すること、それにともない必要となる日本台湾学会賞規定の改定について提案があり、原案通り承認された。

6. 第24回学術大会について

松田理事長から、第24回学術大会については7月の常任理事会までに方針を決めたいとの説明があった。

7. その他

富田企画委員長より来年度の学術大会への応募が呼びかけられた。続いて松田理事長から、学会報への投稿呼びかけと、台湾協会からの助成に対する感謝が述べられた。日本台湾交流協会から今回のシンポジウムへの助成に対する感謝、および実行委員への感謝が述べられた。

以上で予定していた議事は全て終了し、司会の黒羽会員により閉会が宣言された。